

舞台説明（すべて手話・字幕あり）

1 __舞台装置の説明

舞台の広さ、段差や階段の場所、大道具や小道具がどのように出てくるのかなどを説明します。目の見えない人が空間を感じられるように、大きな足音を鳴らして舞台上を歩きまわり、その歩数を伝えるなどします。ポンプは実際に水を出してみせます。



2 __出演者の紹介

俳優（声のみの出演者も含む）、舞台手話通訳者、音声ガイド担当者らが舞台上に登場し、役名と衣装の説明を行います。もっとも出番の多い、ヘレン・ケラーとアニー・サリバンは「サインネーム」（今回の公演専用の役名を表す手話）を紹介します。ヘレンは衣装のワンピースの丸い襟を表す仕草、アニーはサングラスをかける仕草です。



公演中の鑑賞サポート

1 __手話通訳

「舞台手話通訳者」は、出演者の一人として芝居の中に入り込み登場人物と一緒に舞台を駆け回ります。俳優に合わせて動いたり、階段の上から登場して下りてくるなど舞台上をかなり移動するため、座席によって手話通訳が見えにくならないよう調整を重ねました。

俳優らと顔を見合わせたり、踊ったり、しゃべるセリフや流れる音楽・音を全身を使い手話で表現し、芝居の中に入り込んだ演出となります。



2 __字幕

舞台奥の大道具にセリフを字幕で表示します。またセリフ以外にも音楽や音の説明も表示しています。

字幕は台本をもとにセリフのスピードなどを加味して制作。また、舞台照明と組み合わせた際に、見やすい文字の色・大きさの組み合わせを客席に合わせてその都度変更しています。

字幕はオペレータが舞台を見ながら俳優の動きに合わせて、手作業でセリフに合わせて出力します。



3 __音声ガイド

通常は見えない人のためだけにあり、必要のない人には聞こえない方法で提供されます。その場合は携帯端末などからイヤホンを通して聞きますが、今回は、オープンかつライブで会場全体に伝えます。

セリフだけでは伝わらない情報（俳優の動きや表情、感情、舞台上のどこにいるのか、場面は家の中か外かなど）を届けるために、音声ガイドの専用台本を制作しました。

セリフと音声ガイドのタイミングを合わせることや、見える人が聞いても邪魔にならないかなど、細部まで何度も確認と調整を行いました。



バックステージツアー

開演前にバックステージツアー（舞台裏見学）を行います。舞台上に上がり、俳優やスタッフからの解説を交えながら進行していきます。見えない人にとって、舞台空間の広さや実際に使用する大道具や小道具・衣装などに触れる事で事前にイメージを持って観劇してもらうためです。そして終演後も観劇を通して影響された“感性”を自分自身の経験に出来る時間として、希望者全員を舞台に招待します。

客席のひとり一人が感じ、疑問に思うことを自分の言葉で伝える機会になります。

